

令和5年度第1回奄美市総合教育会議

日時：令和5年10月30日（月）10：30～

場所：本庁舎6階中会議室

出席委員（市長部局）安田 壮平 市長

（教育委員会）村田 達治 教育長

恵上 イサ子 教育長職務代理者

西 正和 教育委員

都 八代美 教育委員

荒田 朋寿 教育委員

傍聴人なし

議 事 録

○市長あいさつ

総合教育会議は、教育についての市民の関心、議会の関心が非常に高い中で、教育の独立性というものを保ちながら、市としてしっかりと後押しをさせていただき、教育に関する政策を実現していくためにも欠かせない大切な会議だと思っておりますので、ぜひ、教育委員の皆様にも、奄美の子どもたちのために活発な議論をお願いしたい。

今回、ICT活用による学力向上というところでテーマを設定させていただきました。

国を挙げて、GIGAスクール構想が動いている中で、児童生徒一人一人にタブレット端末を配付し、先生方と力を合わせながら、子どもたちの学力向上を図っているところです。

ソフトや、実際の使い方、運用の仕方が大事だと思いますが、これについては、教育委員会、そして、学校現場、しっかり連携をとりながら、子どもたちの能力向上のために日夜、努力していただいていると存じます。

このICT教育というのは、離島においても、非常に大きなツールになるというふうに思っています。これは、目的ではなくあくまでも手段なので、この手段を活用しながら、子どもたちの学力、生きる力、あるいはコミュニケーション力というのを伸ばしていけるように、そして、より良い方向で活用していけるように、本日は、皆様に実際の操作などをさせていただき、子どもたちの気持ちも味わっていただきながら、意見交換の場となればと思っています。

○事務局説明

総合教育会議の概要

○協議事項「ICTを活用した学力向上の取組みについて」

（学校教育課説明）

1 奄美市の児童生徒の実態を踏まえたICT活用の有効性について

（1）本市の児童生徒の学力状況（全国学力学習状況調査結果から）

- ・小学校は、国語で県や全国との差が広がり、課題が大きくなっている。
- ・中学校は、全ての教科で県や全国の平均正答率を下回っており、課題がある状況。英語に関

しては、全国をマイナス5%以上下回っており、課題が顕著である。

- ・国語は、奄美市の特徴として、基礎的・基本的な内容である知識、技能の観点の落ち込みが大きい。小学校では漢字の書き取り、言葉の活用、中学校では、古文の現代仮名遣いなど。

- ・算数・数学では、知識、技能及び判断力、表現力のどちらの観点ともに低い状況。特に、本市の中学校の生徒の大きな特徴の一つに、数と計算の内容の知識技能に関する問題、例えば、テストでいうと、大問1に出てくるような問題で正答率が低い。

- ・英語では、全ての項目で県・全国を大きく下回っている。基礎的・基本的な問題についての落ち込みが見られる。

- ・基礎的・基本的な内容の定着で、課題があるのが本市の特徴。授業で取り組んだことの確認や、見届けができておらず、定着に向けての取組が不十分なまま次の学習、そして次の学年に進んでいるのではないかと考えられる。

その結果、学年が上がるにつれ、分からないが積み重なっている状況であり、分かっている子どもとそうでない子どもの差が大きくなっているのではないかと考えられる。

(2) 児童生徒の学習状況とICTに関わること

- ・小学校では、「学校に行くのは楽しい」と回答している割合は、昨年度よりも下がっている。
- ・学力で結果を残している学校は、学校が楽しいと答える児童の割合も高いことから、分かる授業づくりに課題があるかもしれないと考えられる。

- ・中学校においても、自己肯定感が低く、全国を大きく下回っている。

- ・学校が楽しいと思っている割合が、昨年度よりも大きく下回っているのも気になるところ。

- ・小・中学校ともに、ICTの活用に対する意識が、令和4年度よりも大きく高まっており、タブレット機器の活用が進んでいる成果と捉えている。

- ・小・中学校ともに、授業以外でのPC、タブレット機器の活用割合が低い。

(3) 本市が目指す授業とICTとの関連

「授業充実の3ポイントを核とした学力向上対策・授業改善の5つの方策」について説明。

2 本市のICTの活用状況について

- ・奄美市では、児童生徒1人1台タブレット端末が整備されている。

- ・教室では、電子黒板等を使って、教師や児童生徒のタブレット端末の画面を映し、授業で活用している。

- ・電子黒板や大型テレビを使うことで、教師は全体に向けて説明をすることが可能になる。

- ・タブレット端末を使って話し合いを行い、自分の考えをお互いに交流し、書き込みをしながら、説明をすることができ、書き込んだ内容については、タブレットに保存することができるので、振り返りの際に有効になっている。

- ・タブレット端末を用いることで、自分の考えをより分かりやすく相手に伝え、相手の考えを聞いて、自分の考えを書き加えるなど、今まで以上に協働的な学びの充実が図られていると考えている。

- ・AIドリル navima (ナビマ) では、AIが児童生徒の習熟の状況に合わせて、必要な問題を選んで、出題するため、習熟が早い児童生徒には、より難しい問題、基礎学習が必要な児童生徒に

は、それに応じた問題を出題できる。

・教師からは、児童生徒の取り組み状況や、理解度が確認できるため、個別の指導の必要性や意欲を高める働きかけをすることができる。

3 AIドリル・ロイロノート体験

4 奄美市のICTの課題

・タブレット端末の持ち帰りは、全ての学校で実施している状況にはない。その要因は様々あるが、家庭によっては、Wi-Fi環境ができていないことも意見として上がっている。

・ICTに苦手意識を持つ先生もおり、また、AIドリルを含めたICT機器の活用には、学校や教職員で差があるという状況もある。

・毎年、学期初めの更新作業では、学校の規模によっては、多くの時間を更新作業に充てる必要がある。ICT支援員の充実などの改善が必要であると考えている。

○質疑応答・意見

(教育長)

説明の中で、定着しない分が積み重なって差が広がっているという説明がありましたが、大事なことは、どの子ができて、どの子ができていないかというところをしっかりと把握して、個に応じた指導を、授業時間の中でしっかりやっていくことではないかと思っています。

そういった意味で、このICTの活用ということになるのではないかなと思いますが、教育委員会としては、授業の中でしっかり見届けをして、できていないところについては、補足して1時間を終わるような、そういった授業の組立てが大事だと考えています。

(市長)

操作をして、とても可能性と、また、意欲が非常に高まるのではと感じました。活用方法によっては大きな力を発揮するものだと感じています。

漢字とか英単語のスペルなど、書いて覚えないとなかなか身につかないものもあるのではないかな。

タブレットと鉛筆・ノートをしっかりとバランスよく使うことができているのかということをお伺いしたい。

(学校教育課)

navimaの一番の良さは、自分ではなかなか自宅学習ができない苦手な子どもに有効なところです。

自分で書くのが好き、タブレットで書くのが好き、どちらも選べる体制にしていかなければならないと考えます。

(市長)

navimaは、主にどういう時間に使われているのか、やはり1番は、家庭学習でどんどん活用するのが、いいのだと思いますが、まだその持ち帰りができてないということでしたので、もしできない場合、授業中に使うのか、放課後なのか、現状の使い方を教えてほしい。

(学校教育課)

授業では、授業の確かめ・見届けの場面での活用ができるのではないかと考えています。

授業の終末の見届け・確かめの時間では、ポストテストを行います。そこで、navimaを活用すると、理解していない子どもに対しては、補充することができますし、分かっている子どもは、自分で進めることや繰り返しの取組みができるため、子どもたちの何もしていない時間が無くなり、確かめ場面での充実が図れます。

(市長)

是非、持ち帰り学習を進めていただきたいが、課題としてはW i - F iの問題があるということでしたが、一部の御家庭には、W i - F iに対する補助もやっているとしますので、100パーセント目指して、使えるようにしてほしいなと思います。

他の自治体の中には、ポケットW i - F iを市が購入して貸し出すというような、そういう事例もあるようですので、そういうところも視野に入っているのかどうか伺いたい。

(学校教育課)

持ち帰りについては、積極的に進めるよう働きかけを行っているところです。

W i - F iについては、携帯電話のテザリング機能というのものも、御案内をしているところです。

W i - F i等がなくて、家庭でできない場合には、navimaから印刷したものを渡すことも伝えているところです。

ポケットW i - F iについては、経費など確認している段階ですので、今後お知らせしたいと思います。

(市長)

navimaやロイロノートの年間使用料、経費はどれぐらいかかっているのか。

(学校教育課)

手元に資料が無いので、後ほどお示しします。令和6年度も予算要望しています。

(市長)

現場の先生からどういった要望が出ているのか。

(学校教育課)

navimaについては、有効との声をたくさんいただいています。

ロイロノートについては、小学生1年生から有効に使っているとも聞いています。

大きな要望としては、年度初めの更新作業に対してICT支援員の配置の要望をいただいています。特に大規模校においては、作業量が多いため、要望が出ています。

(市長)

是非、活用を図ってほしい。全国的にもICTを活用しているのは同じ状況ですので、負けないう

に課題を乗り越えてほしい。予算については、ふるさと納税を活用してほしい。市としても、教育に還元できるように取り組みたい。

そのためにも、成果が出ましたということを見える形で報告していただければと思います。

(教育委員)

月1回から3回、学校訪問がありますが、行くたびに、先生方が、このICTに一生懸命関わっている姿を見て、子どもたちに少しでも力をつけようと頑張っている姿に感動しています。

ぜひ、市長、副市長も、機会があれば、そういう子どもたちや先生方の姿を見ていただき、市としてどういうふうな手立てをしてサポートしていけばいいのか考えていただければ嬉しい。

先ほどの市長挨拶の中で、ICTはあくまでも一つの学力向上のための手段だという言葉聞いて安心しました。

私たちの年代のように、こういう機器がスムーズに使えない者にとっては、ソフトの部分と、ハードの部分のバランスが大事だと思っているので、ぜひ、教育現場の中で先生方と子どもたちの心の疎通をきちんとしながら、手段の一つとして使っていけるような現場になっていけば、奄美市の子どもたちの学力はどんどん向上していくのではないかと期待をしています。

(教育委員)

学校を訪問すると、ほとんどの学校で、このタブレットが有効活用されていて、授業を見ると、低学年の子どもたちも、自由自在に使っている。

国語の漢字学習、計算問題など、本当に素晴らしいなと思っている。教師のレベルアップや、子どもたちの能力が上がっていけば、奄美市の学力もこれからどんどん上がっていくのではと、そういう期待をしているところです。

小学校も中学校も、書くこと読むこと、これについては全国平均を上回っていますが、話を聞くという分野が奄美市は全国平均と比べると下回っています。

多くの人の前で話すとか、あるいはたくさんの人たちのいろんな考えを聞くことも、このタブレットでみんなの意見を集約してそれを参考にするという活用もしていますので、話を聞く分野でも学力が伸びていくのではないのかなとも期待しています。

(教育委員)

これは、自宅で遠隔授業などできるのでしょうか。オンラインで授業を受けることを聞いたので、そういう活用の仕方もできればいいと思います。

(学校教育課)

Zoomというソフトがありますので、それを使って遠隔で授業を行うこともあります。

例えば、欠席している児童生徒に、授業している教室とつないで一緒に参加することもあります。

(教育委員)

ICT教育が始まったが、なかなか実際に定着しているかどうか分からないと思います。なかなか、はっきりと数字に表れてこないと思うのですが、実際使ってみたら、子どもたちが楽しく使っているのが分かりますし、今後、定着して、学力向上に数字で表れてくるのが1番いいと思いますので、見守

っていきたい。

(事務局)

教育長から総括的にお願いします。

(教育長)

特に市長から御質問御指摘のあった、大きく5つの点につきましては、ICT活用の核となる部分、直結する部分です。

その上で、大きく2点、私のほうから、今後気を付けて取り組んでいきたいところを申し上げます。

まず1点目は、本市の学力向上の課題として、やはり基礎的な部分で落ち込みの大きいものがございいます。いわゆる読み書きそろばんの部分でして、それを補うために、このタブレットの活用ということもあるのですが、実際、自分の手で書く、声に出して読むという、その部分は、やはり、バランスよく学習活動の中に取り入れて、これから子どもたちが、成長していくために、基本的なそういったところはしっかりと身に付けるようやっていきたい。

タブレットの活用について、委員から遠隔授業について、関連の御質問がありましたけれども、やはり、本市といたしましても、不登校の子どもたちも少なからずいる状況ですので、工夫して活用を図っていければと思っています。

(市長)

最後に2点ございまして、1点は、教育長がおっしゃった、不登校児童生徒への対応について、ICTの力もいろいろと検討していただいて、積極的に活用していただきたいなと思います。

2点目が、学力をはかる指標としてお示しいただいた、鹿児島県と全国のテストですが、やはり、義務教育の総仕上げとしては、公立の高校入試の点数だろうと思いますので、そこも1つの目安にしていただきたいと思います。

こちらは、自治体ごとに把握できるものはありますか。

(学校教育課)

新聞報道では、地区ごとでしか分かりません。奄美市の人数からいくと大島地区で占める割合は大きいので目安にはなりますが、市町村ごとの把握ができるかどうかということにつきましては、確認してみます。